

会報

第17号

2009年8月1日発行

発行：群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局：〒370-3521 高崎市棟高町 1257-5

NPO 法人じゃんけんぼん事業本部内

TEL 027-387-0180 FAX 027-387-0181

Eメール renkyou@gunmaken-chiiki.net

協議会ホームページ <http://www.gunmaken-chiiki.net>

第9回定期総会

前橋市勤労福祉センターにて

平成21年5月27日



あつち
会長 井上 謙一

平素より、当連絡協議会運営につきましてご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

今回、第9回の定期総会は200名の参加がありました。また、群馬県内のグループホーム211事業所の内、177事業所、84%が、小規模多機能型居宅介護事業所53事業所の内、37事業所、70%

の加入率となり、これも皆様のお陰であります。これほどの、総会での参加率や、協議会への加入率が高いのは全国的にみましても、珍しいものであります。今年度は、介護保険が見直され、特にこの4・5月は、私達をとりまく事が色々と変化し対応に追われる日々でした。渋川市での火災の話から、インフルエンザ、緊急経済対策、我々がこれから求めていくべきもの等いくつか話をしたいと思います。最初に3月19日渋川市静養ホームたまゆらの火災ですが、お亡くなりになられた10人のご冥福をお祈りいたします。事件後2新聞社が私の所に取材にきましたが、世間は「同じ様に小規模で年寄り」を収容している所」と思っ

ています。私達地域密着型サービスは、介護保険制度にもとづき、市町村の指定・指導・監督の下、実地指導が年1回行われ、外部評価・情報の公表・運営推進会議が義務付けられており、日頃より、行政や住民に開かれたホームであり、無届けホームとは根本的に違います。しかし、私達は、火災がもたらす計り知れない影響を肝に銘じ、その原因となる事柄を日頃から、注意、意識して事故を起こさない事を考える時です。その上で、万が一に備え災害を最小限にする為、避難訓練やスプリンクラーがあるのです。その設置に関してグループホームが275㎡以上の義務付けで9千円/㎡の補助金が出ると思いますが、グループホームの275㎡以下の所や小規模にも同じ適用をすべきだと思います。渋川市ではグループホームの275㎡

以下でも補助の対象として
います。

次に、インフルエンザの件
ですが、県内において、6
月24日に高崎市において、
最初の新型インフルエンザ
の感染患者が認められ、7
月8日現在では、7例目の
感染患者が確認されていま
すが、施設内での発生時の
対応として、グループホー
ムでは個室隔離、小規模は
通所や泊まりを中止し、訪
問に切り替えると通達があ
りますが、日々状況は変わ
りますので、県のホームペ
ージか厚生労働省のホーム
ページを見て対応をお願い
したい所存です。事務局と
しても、リアルタイムで皆
さんにお知らせしたいと思
っております。

次に、緊急経済対策につい
て、介護職員処遇改善交付
金が検討されていますが、
21年度介護報酬改定では
他の業種との賃金格差は、
縮まらない為、事業者から

の申請で介護報酬とは別に
交付されるようです。交付
率はグループホームで35%
の介護職員人件費比率で交
付率が3.9%、小規模で40%
の人件費率で交付率が4.2%
で、10月から2.5年分を予算
化されると言うことです
が、まだ中身の詳しいこと
は現時点ではわかりません
ので、今後の動向を見守り
ながら、情報だけが独り歩
きすることのないようにし
ていきたいと思っています。

その他、グループホームや
小規模の緊急整備を提案し
たい。市町村交付金を拡大
して数を増やしていただ
き、市町村の介護保険事業
計画の見直しを求め、県内
全ての市町村が交付金助成
を適用し、グループホーム
の今までの規制の撤廃を求
めたいと思います。

また、地域の相談拠点とし
ての強化を望みます。高齢
者が住み慣れた地域で生活
できるように地域包括支援

センター等に相談支援専門
職のバックアップ職員を雇
用するとありますが、地域
密着型サービス事業者にそ
の職員を雇用する事を要求
します。その中、まずは自
主的に地域の相談拠点とし
て活動し広報で周知してい
く事が大切だと思います。

最後に、外部評価の実施回
数の見直しが今年度ありま
した。情報の公表も今年度
より義務化された中、21年
度以降は5年連続受審した
事業所で、運営推進会議を
年6回以上開催されている
等の条件により評価回数を
隔年にできる規定がありま
すので、パンフレット「評
価でゴー」をご参照下さい。

種々の話や提案をさせて
いただきましたが、現状や
時代に翻弄されずに「大切
な事」を見つめ育て、原点
に返り一步一步前に進む事
を皆様と確認していきなが
ら挨拶いたします。

別冊
時評

講師

永田久美子先生

「地域密着型サービスが地域で果たす役割」

プロフィール



新潟県三条市出身。学生時
代から地域や病院、施設で認
知症の人と家族を支援する
活動と研究を続けてきてい
る。東京都老人総合研究所を
経て、2000年8月から認
知症介護研究・研修東京セン
ター勤務。認知症の人と家族
がともに自分らしく暮らし
ていくための支援と町づく
りをテーマに、本人ネットワ
ーク支援、センター方式を活
かしたチームでの支援、自治
体単位での支援体制作りな
どに取り組んでいる。主な著
書に、「認知症ケアをもっと
楽に」、本人と家族のための
センター方式ガイドなどが
ある。

総会後に認知症介護・研修
東京センター 研究副部長
の永田久美子先生による特
別講演として、「地域密着型
サービスが地域で果たす役
割り」について、お話しをし
ていただきました。

一時間半という時間の中で、
日々から少し離れて、まず
は、我々が歩んできた「これ
までと今」そして「これから」
を一緒に考え、そして、現状
や時代に翻弄されずに「大切
なこと」を見つめ、育ててい
くための足がかりとしての
お話、そして、地域密着型サ
ービスという特徴を活かし
て互いにもっと楽に、楽しい
日々になるために、各自の立
場でできることをみつけよ
う！ということでお話が締
めくくられました。

提供者本位のケアから、本人
本位のケアへモデルチェン
ジできる場であり、地域密着
型サービスは何故、小規模で
少人数なのか？を考えると、
各種サインと一緒にそばに

居ながら感じ取れ、顔が常に
見える関係であり、言葉だけ
ではない個別のコミュニケ
ーションが取れるものです。
そういった特徴を最大限に
活かしながら「暮らしを共に
しながら、個別ケアの可能性
を伸ばそう」「本人を大事に、
地域とのつながりを築いて
いこう」「地域の認知症ケア
の拠点として（小さな）地域
貢献を」というお話を聞けま
した。私達が日々、仕事に明
け暮れている中、認知症ケ
ア・地域の大切さ等、原点に
かえり、また自分の立場で出
来ることって何だろう？と
考える機会を与えてくださ
いました。とても参考になっ
た貴重な時間だったと思い
ます。

皆さんは、どう感じ、お考え
になりましたか？
次の日からの活力になって
いただけたでしょうか？こ
の講演をきっかけにどんな
小さな事でも実践していっ
てくだされば幸いです。

新役員・ブロック別構成員の紹介です 二年間よろしくお願いします！

役職名	氏名	事業所名	所在地	所属ブロック
会長	井上 謙一	小規模多機能の家じゃんけんぽん国府	高崎市	西部ブロック
グループホーム運営部長	渡邊 高行	ケアホーム「家族の家」新里	桐生市	東毛ブロック
小規模多機能運営部長	高橋 昭	ケアサポートセンターようざん	高崎市	西部ブロック
研修部長	恩田 初男	グループホーム喜楽	館林市	東毛ブロック
広報ネットワーク部長	中原 真紀	グループホームやさしい家	藤岡市	南部ブロック
事務局長	佐塚 昌史	グループホームじゃんけんぽん群馬町	高崎市	西部ブロック
事務局長代理	原 到	グループホームかがやき入野ホーム	高崎市	西部ブロック
中北毛ブロック長	池田 清	グループホームベルジ吉岡 たやの家	吉岡町	中北毛ブロック
西部ブロック長	松原 徹	グループホームなごみ	高崎市	西部ブロック
東毛ブロック長	川島 香瑞美	グループホームつむぎの里	邑楽町	東毛ブロック
南部ブロック長	清水 浩幸	グループホームさいら	甘楽町	南部ブロック
小規模多機能全県 ブロック長	櫻場 一典	多機能ハウスひなたぼっこ	伊勢崎市	南部ブロック
小規模多機能全県 ブロック長	菅原 優	小規模多機能ホーム榛名荘	高崎市	西部ブロック
会計監査・監事	平川 二子	グループホームひらかわ	高崎市	西部ブロック
会計監査・監事	橋本 美々華	グループホーム吉井マリル	高崎市	西部ブロック

委員担当		氏名	事業所名	所在地	所属ブロック
中北毛	研修委員	金井 崇	グループホーム恵の家	沼田市	中北毛ブロック
	広報委員				
	運営委員				
西部	研修委員 運営委員	小和田 美晴	グループホームあじさい	高崎市	西部ブロック
	広報委員 運営委員	原田 稔	グループホーム「家族の家」浜川	高崎市	
東毛	研修委員 運営委員	高木 武彦	グループホーム愛	大泉町	東毛ブロック
	広報委員 運営委員	上野 節子	グループホームつどい	館林市	
南部	研修委員 運営委員	森田 裕之	グループホームころろ	甘楽町	南部ブロック
	広報委員 運営委員	小林 光一	グループホーム原市	安中市	

各ブロック報告

東毛ブロック

総会後の話し合いでは、今年度の研修委員・広報委員の紹介後に会員の皆様に一言ずつ発言していただきました。概ねブロックの研修に満足され今後もがんばってほしいと委員に感謝の言葉をかけていただきました。ただ、研修に参加しやすいように、年間の研修予定日を年度初めに知らせてほしいという要望がありました。また、連絡協議会は各グループホームの支えになっており、介護保険上の情報提供や介護報酬改正に向けた活動などもつとがんばってほしいとの意見も出されました。ブロック別では、主に研修を重視した活動になっていますが、



今後は連絡協議会役員と会員（各ホームの管理者）との密接な信頼関係を作っていく必要もありそうです。また、東毛ブロックで行う年間の行事の研修時期や内容については、早期に会員の皆様にお知らせしていきたいと考えています。

平成21年度研修予定として、レベルアップ研修を年間2回行い、施設見学研修は年間を通じて随時行います。また、職員研修を年間3回予定しております。詳細に関しては、会員の皆様には早めにお知らせしていきたいと思っています。

中北毛ブロック



定期総会後に、各ブロックに分かれ、今年度の活動予定をお話させていただきました。まずは、7月～9月に施設見学研修を行い、10月～12月には、レベルアップ研修を行う予定でいます。また、来年の1月～2月にブロック全体での研修を行いたいと思います。テーマは未定です。ブロックの皆様には、随時お知らせしていきたいと思っております。

西部ブロック

定期総会後のブロック別会議では、普通救命講習Ⅰの案内（7月15日済み）と施設見学・レベルアップ交換研修についてアンケート配布し、その結果をもとに現在西部ブロックでは各事業所にて進行中です。今後の活動予定としては、レベルアップ交換研修を活発に行っていく、今回はペアーを組んでの開催としていきます。第一期を6月～10月末日までを予定しており、施設見学研修については、レベルアップ交換研修のペアー以外で、見学研修を随時行っていく予定です。



6月17日には西部ブロックの定例会を開催し21事業所の参加がありました。内容としては、まず、高崎広域消防

局課長の富雄様にお越しいただきまして「たまゆら」「さくら館」の火災の経緯の説明や、平成21年4月から法改正された、防火管理者の選任が30人以上の施設から10人以上になった事、消火器や自動火災警報装置の設置が全ての施設に対して義務化された事、スプリンクラーの設置が275㎡以上で義務化された事のお話がありました。また、会長より、高崎と吉井が合併し、西部ブロックのみ、行政が高崎単独になり連携が取りやすくなった事や、今年度のみ、275㎡以下の事業所でスプリンクラー設置希望施設に補助金が高崎では交付される事、認知症サポーター講座を行い、地域に認知症の理解を是非深めてもらい連携をとっていつて欲しい等のお話がありました。

南部ブロック

総会後で各ブロックに分

かれた際、今年度の南部ブロックの活動予定を配布いたしました。また、レベルアップ交換研修と見学研修の参加・ブロック単位での研修の要望をアンケートとして配布いたしました。活動予定としては、10月までを前期、来年4月までを後期として、前期では、先ほどのアンケートを集計した上で、レベルアップ交換研修と見学研修を10月までにお互いの施設で調整をとって行っていく予定です。また、10月にはブロック全体の研修（内容は未定）を要望の中から検討して実施予定です。同月に後期の各種研修の要望や参加意向の調査を行い、後期につなげていく予定でいます。後期は11月より3月までにレベルアップ・見学研修を再度実施し、ブロック全体の研修も予定です。



7月8日にはブロック会議が藤岡市藤岡公民館にて開催され、29事業所の参加がありました。その中で、総会後に配布したアンケート結果により、レベルアップ交換研修の組み合わせや見学研修についての説明がありました。前期のレベルアップ交換研修は、37事業所が、見学研修は31事業所が参加する事となり10月までに随時お互いに連絡調整して実施する事になりました。また、ブロック全体の研修として要望がいくつかあり、その中で、運営推進会議へのお互いの参加をしたいとの要望があった中、

小規模多機能全県

総会後の集まりでは、自己紹介が進むにつれ、いろいろな悩みや質問が出されました。高橋部長がいくつかの

これに関しては、市町村単位での事業所内にて随時希望に応じて実施していきましようと言う事になりました。その他、情報交換や事例検討会、普通救命講習等の要望があり、前期のブロック研修に向けて調整していきます。また、南部ブロックは、いくつかの市町村から構成されている為、ブロック内において各市町村レベルでの活動も今後の予定としています。最後に今年度の中で、認知症の啓発活動の一つとして、サポーター研修を地域の方対象に、藤岡市、安中市、甘楽・富岡地区にて実施計画をしています。

質問に答えようとなりましたが、時間がなく、今年度の活動計画を考えるに、三月に一度は会合を持つ事に賛否を採ったところ「是非やろう。やって下さい」と全員が賛成しました。そこで、すぐに第1回の予定を立てて、7月15日に意見交換会を開催することになりました。その報告をいたします。

勤労福祉会館にて34事業所50名の方が参加され、事前に事務局でアンケート調査を実施、集計をしました。経営とケアマネジメント、ケアプランに関する課題が多く出されましたが、大まかに分けると運営に関しては、①どうしたらご利用者を確保できるか②ご利用者の「通い」「訪問」「泊まり」「通院」等のサービスの調整とプランをどうたてるか？の2点について各事業所に成功例を聞き、検討しました。その中で、①につ

いては、居宅のCMと付き合い方により、情報提供を受ける。ホームページによって広報する。居宅CMへ定期的にDMを送る。家族からの紹介をしてもらう。地域に活動報告・通信の発行をし、信頼関係をつくる。医療機関からの紹介を受ける等がだされました。また②に関しては、利用者を担当制にしている（スタッフにケアプランに参加させており、CMとしてはその調整役）。ライフサポートワークを利用する。事業所側の意見と利用する人達の考え方の違いがあり、理解を得る努力をする。同じ事業所内での、意見交換を密にする等がだされました。その他の意見交換として、CMが専従の場合と兼務である場合ではプランの立てる際の過程も変わってくるという意見や、訪問機能のこと、ターミナル、人材育成のことについて意見が出されました。今回の意見交換会の総括として



小規模多機能サービスは、利用する側にとつては何でもしてもらえて、とても割安感のサービスであります。事業所側にとつては経営面や運営面にとつても難しい課題があります。極端な例をあげれば、要介護1の利用者さんが25人利用登録したならば、経営は赤字です。また要介護5の方が15人利用していても経営は不安定になります。意見交換会で事業所同士が、意見を出し合い、皆の知恵を出し合えばきっといい方向へ進んで行くのではないのでしょうか。

（報告

全県ブロック長 櫻場）

小規模多機能・グループホーム大会 開催日決定！！

開催日 平成21年10月19日（月）

会場 前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町 2-17-10）

今年度は昨年を更に上回る多くの事業所より発表の申込みを頂いております。日頃の認知症ケアの実践の中で成功したこと、失敗したこと、現在の悩みなど事例発表を通じて学び合ひましょう。

※発表申込み済みの事業所には正式演題の確認、発表形式などのご案内を8月中に郵送予定です。

事務局からの送付連絡がない場合はお手数ですが 027-387-0180 までお問合せ下さい。

新任者一日研修のお知らせ

昨年度好評でした社会人としての常識を身につけてもらうため、新任者の1日研修を2回開催します。

1回目 平成21年8月29日（土）定員30名 10：00～16：30 （定員の為、募集終了）

2回目 平成21年9月 5日（土）定員30名 10：00～16：30 （若干余裕あり）

締切日 8月20日 FAX 027-387-0181 問い合わせは 喜楽の恩田まで